

AI/IoTを活用した次世代施設園芸システムの確立に向けた テストベッドに「Sigfox」で参画

京セラコミュニケーションシステム株式会社（本社：京都市伏見区 代表取締役社長：黒瀬 善仁、以下 KCCS）は、IoT ネットワーク「Sigfox」およびセンサデバイス技術の提供を通じて、ヤンマー株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：山岡 健人、以下ヤンマー）が採択を受けた総務省の平成28年度IoTテストベッド事業を推進します。

日本では、農業人口の減少や就農者の高齢化による人手不足から、地域産業である農業の活性化が喫緊の課題となっています。ヤンマーではこれらの課題に対し、効率的で持続可能な農業を実現するため、ICTを活用した農業ソリューションの提供や技術開発に取り組んでいます。そしてこの取り組みの一環として、次世代施設園芸システムの確立に向け、栽培や生産管理などでのAI/IoT活用を実証する農的空間を整備したテストベッドを設置し、2017年10月10日より運用を開始します。

本テストベッドは、通信・IT業界などのさまざまな企業が利用し、農業ICT技術開発の加速と次世代施設園芸システムの確立により、先進的な農業ビジネスモデルの創出を通じて農業の発展と地域社会の維持・活性化に貢献するもので、総務省の平成28年度テストベッド供用事業の採択を受け構築されています。

この度、KCCSはヤンマーが主導する「次世代施設園芸システムの確立に向けたテストベッド」の構築に参画し、Sigfox およびセンサデバイス技術の提供を通じて、本事業を推進します。

Sigfoxは、低消費電力かつ長距離伝送が可能なLPWA（Low Power Wide Area）ネットワーク技術です。国内においてはKCCSがインフラ構築およびネットワークサービスの提供を行っています。安価なサービス利用コスト、電池で長期間運用できる低消費電力性、クイックスタートが可能なクラウドの提供、グローバル・ワン・ネットワークといった特長があり、センシングデバイスを容易に開発できることから、農業分野でも期待を集めています。

KCCSはSigfoxオペレータとして、IoT導入におけるコスト面、技術面のハードルを下げ、就農者がセンシングデータを使って効率的に生産性の向上を図れる仕組みづくりを目指し、農業の発展と地域社会の維持・活性化に貢献します。

■総務省／テストベッド供用事業概要

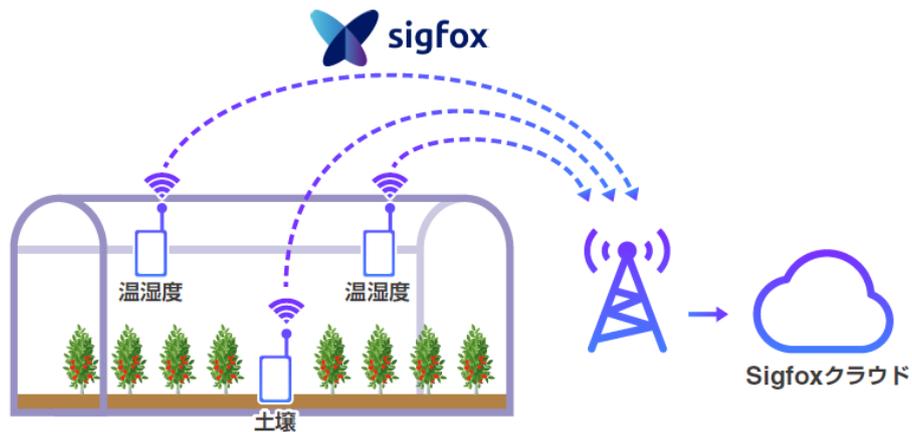
事業名	新技術開発施設供用事業（IoTテストベッド供用事業）
事業主体	総務省、ヤンマー株式会社 中央研究所
名称	YANMAR IoT Smart Greenhouse
試験期間	2017年10月1日～2020年9月30日
試験場所	滋賀県米原市
ハウス面積	201 m ²

（ご参考）

平成28年度IoTテストベッド事業及び地域データセンター事業に係る助成金の交付決定
<https://www.nict.go.jp/press/2016/11/14-1.html>

・ AI/IoT を活用しやすい農的空間を整備したテストベッドを構築

本テストベッドは、消費者のニーズに合わせた栽培コントロールを目指した研究等に利用することができます。農的空間における温度・湿度などのセンシング技術とネットワークの信頼性検証や、遠隔制御して収集したデータを活用することで農作物の収穫時期・収穫量を予測します。また、将来的にはハウス毎の生育状況だけでなく、周辺の農作物の生育状況をクラウドで一元管理できる農業プラットフォームが構築されることが期待されます。



< Sigfox を活用したシステムのイメージ >

- * 製品の仕様、提供開始日は予告なく変更させていただく場合があります。
- * 製品名および会社名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- * 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。